



関西を考える会作成冊子の表紙一覧



1979-80(昭和54-55)年



1981(昭和56)年



1982(昭和57)年



1983(昭和58)年



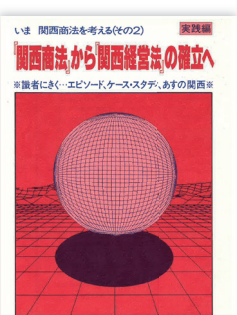
1984(昭和59)年



1985(昭和60)年



1986(昭和61)年



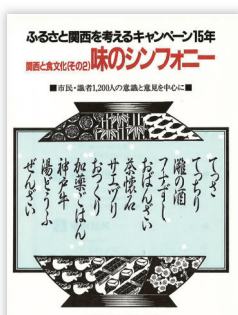
1987(昭和62)年



1988(昭和63)年



1989(平成元年)



1990(平成2)年



1991(平成3)年



1992(平成4)年



1993(平成5)年



1994(平成6)年



1995(平成7)年



1996(平成8)年



1997(平成9)年



1998(平成10)年



1999(平成11)年



2000(平成12)年



2001(平成13)年



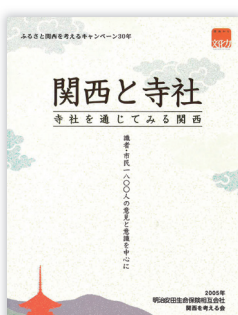
2002(平成14)年



2003(平成15)年



2004(平成16)年



2005(平成17)年



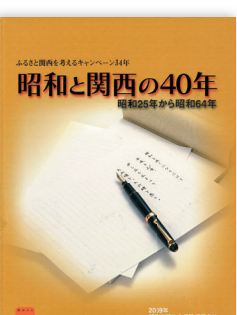
2006(平成18)年



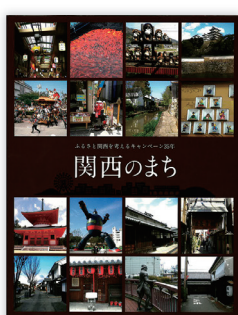
2007(平成19)年



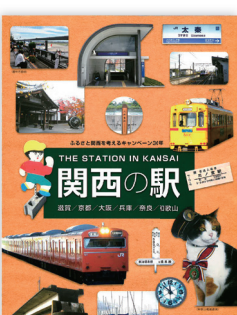
2008(平成20)年



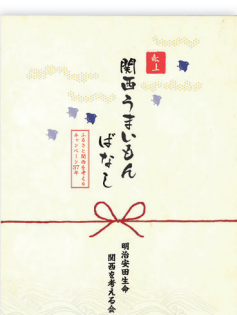
2009(平成21)年



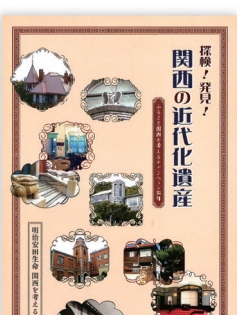
2010(平成22)年



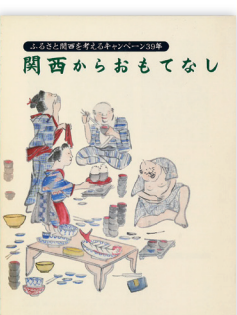
2011(平成23)年



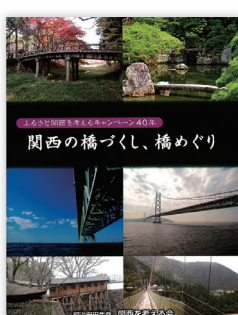
2012(平成24)年



2013(平成25)年



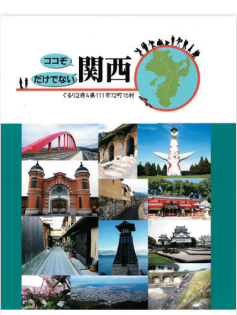
2014(平成26)年



2015(平成27)年



2016(平成28)年



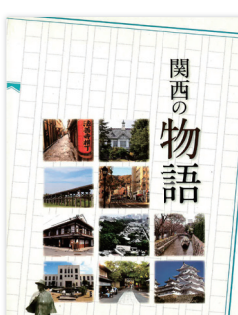
2017(平成29)年



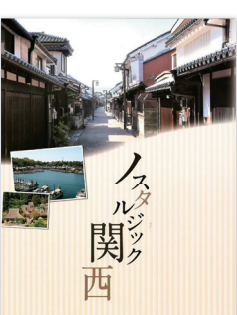
2018(平成30)年



2019(令和元年)



2020(令和2)年



2021(令和3)年



2022(令和4)年



2023(令和5)年



2024(令和6)年



2025(令和7)年

この期間に発行したダイジェスト版など



1987(昭和62)年
ザ・関西商法



1988(昭和63)年
「もう一つの日本」の確立
関西の実像と
未来を考える



2001(平成13)年
25年のあゆみ
ダイジェスト版



2015(平成27)年
40周年記念
2001-2015
ダイジェスト



2025(令和7)年
50年のあゆみ
1976-2025
ダイジェスト



有識者の声

「関西を考える会」が2025年で活動開始50年を迎えるにあたり、有識者のみなさまからたくさんのコメント（ご意見、ご指摘、ご提案など）をいただきました。温かく、心強いお言葉、若干耳が痛くなるお言葉、厳しいご指摘等、すべてありがたく受け止め、今後の「関西を考える会」の活動に活かしていく所存でございます。

なお、有識者のみなさまからのコメントは、『関西浪漫紀行』や『明治安田「関西を考える会」50年のあゆみ』作成に合わせていただいたものです。文章は紙面の制約等から、意図を損なわないよう適宜、編集しております。どうぞご容赦ください。

お祝いのお言葉

- 50周年おめでとうございます！ 関西の地域資源にみがきをかけてくださる活動に敬意を表し、貴会のますますのご発展をお祈り申し上げます。
(浅野 詠子 奈良教育大学非常勤講師)
- 「関西を考える会」50周年、おめでとうございます。貴会のますますのご発展をお祈りいたします。
(有栖川 有栖 作家)
- 半世紀を迎えるなんて、ほんと素晴らしいです。
(井戸 智樹 (一社)世界文化遺産地域連携会議お世話役)
- 50周年を迎えられることへのお慶びを申し上げます。
(井上 邦久 Think Asia Seminar(TAS)代表幹事)
- いつもお世話になりましてありがとうございます。この度は50周年をお迎えになれますとのこと、おめでとうございます。今後益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。
(大安 佐智 文筆家)
- たいへん素晴らしい活動を長年積み重ねてこられたことに深く敬意を払います。その活動に微力ながら参加させていただいていることに誇りを感じております。ありがとうございます。
(小野 恭靖 大阪教育大学 教育学部 特任教授)
- 50周年、誠におめでとうございます。愈々のご隆盛を祈念いたします。
(川口 壽夫 編集者・桃蹊舎代表)
- 「関西を考える会」50周年、おめでとうございます。「浪漫紀行」楽しく拝読いたしました。
(後藤 悦二郎・平山 康代 フォーク・デュオ「紙ふうせん」)
- 50周年おめでとうございます。
(関屋 俊彦 関西大学名誉教授)
- 「関西を考える会」50周年、おめでとうございます！ 執筆させていただくことも張り合いとなっていますが、それ以上に諸先輩方のご寄稿を拝読するのが楽しみです。大阪・関西の魅力を今後も発信いただきたいと思います。
(寺西 章江 にぎわい堂代表)
- 毎年の刊行を楽しみにしております。私の専門分野に係わるテーマの時には協力させていただきます。50周年おめでとうございます。
(中島 保則 日本気象予報士会元副会長)
- 『関西浪漫紀行』ありがとうございました。写真も多く、関西を改めて旅したくなる内容でした。50周年おめでとうございます。
(樋口 須賀子 宮本順三記念館豆玩舎ZUNZO館長)
- おめでとうございます。参加させていただく楽しみで書かせていただいています。ありがとうございます。
(藤本 英子 京都市立芸術大学名誉教授)
- 50周年おめでとうございます。経営環境が激変する時も、この活動を絶やすことなく継続されてきたことは素晴らしいと思います。
(古山 喜章 経営コンサルタント)
- 50周年誠におめでとうございます！！
(吉本 真樹 フリーアナウンサー)

テーマについてのご提案

- 「ワールドマスタースズゲームズ関西」についても取り上げる機会があればと思います。関西の「日本遺産」にも興味があります。
(井上 年央 日本旅のペンクラブ会員、フリーライター)
- 「大阪の文学」といった特集を考えていただけませんか。奈良でも京都でも、あるいは神戸・和歌山でもなく、「大阪」に特化したアンケートの特集です。商都と呼ばれ習わされていて、文学とは疎遠にみられている町だが、江戸時代以降はかなり文学の町でもありました。大阪出身の詩人・作家、ゆかりの文学者、大阪が舞台となった作品など、数えると多彩です。
(藤田 真一 関西大学名誉教授)
- これまで観光に関係するような紹介コメント集冊子になっており、それはそれでとても価値があるのですが、一度も「教育」ネタがありませんでした。テーマとして重たいかもしれませんが、関西で教育を受けたもの、子育てを関西で行なったもの、その経験はないけれども他の土地で生まれ育って、関西の教育を見て思うことなど、一度はお取り上げいただきたく存じます。ご検討、宜しくお願い申し上げます。
(堀江 珠喜 大阪府立大学名誉教授)
- 特に申すほどではないですが、できれば索引的なものが欲しいです。それほど詳細なものでなく、登場する名所名とかです。また執筆者索引もあったほうがいいように思います。最初にお手伝いしたころからは随分と増えていますか、あそこで見ましたよ、的な話題はけっこう広がりますので、広報的にも有用かと思います。
(井上 満郎 京都市埋蔵文化財研究所長・京都産業大学名誉教授)
- 目次が欲しい。どこに誰が何を書いているのかよく分かりません。
(上島 秀友 日本ペンクラブ会員)
- 今回もテーマが広くてまとめにくい、前回と重複するような所もありますね。以前あった「阪神球団」「プロ野球」「百人一首」「お笑い」なんてのは、書きやすく楽しいものでした。長々と書かれる方、ガイドブック然としたものも如何なものでしょう。それにしても編集は大変ですね、対象の現場にも行かれるように拝見。
(近江 昌司 天理大学名誉教授)
- いつも興味深い特集を組んでいただき、ありがとうございます。ただ、数冊並べる際に思うのは、～年版という表示がどこかにあれば手に取りやすいかな…という感じがします。ご一考ください。
(大石 真 京都大学名誉教授)
- 単なる思い付きにしかすぎませんが、今回の『関西浪漫紀行』はせっかくの企画で、各執筆の皆様からの貴重な情報が寄せられるでしょうから、正に紀行案内として、地図に加え、それぞれの紀行先での訪問するに適した、名所・旧跡、神社・仏閣、名店などを列挙したガイドを付けていただくのもよいかもしれないと考えいたします。さらに各地域に伝わる「言い伝え」などもご紹介いただきたく存じます。
(高山 正也 元国立公文書館館長)
- 以前言ったかもしれませんが、この冊子の写真をカラーにすれば、見映えがすると思います。全部ではなくても、一部だけでも。シロクロ画像はどうも地味に思えますから。活字媒体は今やほとんどカラー化しています。経費がかさむと思いますが、年に1度の発行なので、ご検討いただければと思っています。あっと驚くような企画(テーマ)を期待しています。「継続は力なり」…。地道に続けていってください。
(武部 好伸 エッセイスト・作家)
- 50周年を記念してカラー写真版を期待します。
(中原 文雄 表千家一級建築士・建築工房日想舎舎主)
- 十数年前から寄稿させていただいています。毎回、魅力あるテーマに、各識者の方々の紹介を楽しみにしています。テーマ別あるいは年度ごとにまとめて合本にしていただければ、関西のステータスが一層認識され、後世に残る珠玉の「知の知識」になると思います。
(西田 孝司 松原市郷土資料館館長・松原市文化財保護審議会会長)
- 50周年おめでとうございます。リアルでの集いは、年に一回くらいはあっていいと思いますが、いかがでしょう。特別な催しメニューはなくても、顔合わせだけで充分面白そうです。
(本渡 章 作家・日本文藝協会会員)
- 事務局の負担は大きくなりますが、テーマに関する講演会、シンポジウム、ツアー等多様な展開はできないでしょうか。企業発信の文化事業が継続できているのはすばらしいことです。今後にも期待します。
(瀬川 芳彦 伊丹市昆虫館友の会副会長、ナチュラリスト)
- 関西の魅力を掘り起こして頂き、誠にありがとうございます。今後とも様々な角度で掘り起こしてほしいです。ネタ的には一巡した感もあるので「考える会」にふさわしく、関西への提言をしてもらうのも良いかと思いました。例えば、「関西が日本にできること」「創造の都 再生への提言」「もっと魅力的な関西になるには」などです。
(山根 秀宣 大阪まちプロデュース(大阪の魅力再生)主宰)

ご感想

- 興味深いテーマで、関西を考える機会になりました。
(小笠原 好彦 滋賀大学名誉教授)
- 心のこもった情報、編集作業など、ごくろうさます。関西を中心に、より皆様の心の財産がふえますね。ありがとうございます。感謝！
(桂 文福 落語家・上方落語協会理事)
- 大変な編集をご苦労様でした。今度はカラーですね。いつも健筆な文章を拝見して皆様の視点や観察力に感服しています。
(かどもと みのる 神戸港を考える会代表(元船長))
- 本年度の特集はお写真が沢山あり、さらに読みやすく、楽しいものでした。ありがとうございます。
(上 由美子 美術愛好家)
- 情報伝達のスピードと量が爆発的に進化する時代となりました。そこで生じる問題の一つに、文化の画一化があります。「関西を考える会」は其中で、記録だけではなく、人々の記憶に着目して、関西文化の生きた“におい”を、そこに記してくれていると感じます。
(川村 優理 登録有形文化財「藤岡家住宅」NPO法人うちの館館長)
- 50周年のご活動、素晴らしい取組みだと思います。
(河本 俊子 アプトニー・デザイン デザイナー、京都産業大学日本文化研究所上席客員研究員)
- いつもお声掛け頂き、ありがとうございます。皆様の文章を拝見し、いつも、私の中で「もうひとつの関西」を発見し、楽しませて頂いております。貴重な本です。
(木村 真弓 フリーアナウンサー)
- いつも楽しく、テーマに思いを馳せながら書いています。
(黒田 睦子 (公社)奈良まちづくりセンター顧問)
- ニッチな情報いっぱい冊子、いつもありがとうございます。あんな貴重な冊子を定期的に発行され続けているのはスゴイです！
(ごとう ゆき クレイドール作家、イラスト)
- 社会的活動を評価いたします。
(今駒 清則 (公社)日本写真家協会(JPS)会員)
- “関西”が日本の核として発展を続けるためには、“関西を考える会”のような地道な取組みが必要であると思っています。
(齋藤 富雄 関西国際大学名誉教授)
- 以前から、「関西を考える会」の冊子を毎回入手して楽しんでおりました。毎回、興味深いテーマに郷土資料としての価値も高い企画だと思います。ガイド本とは違うディープな内容や視点が知的好奇心を高めます。前々からは非・小生も執筆してみたいと思っていましたので、念願叶いありがとうございます。次回以降も、引き続きアンケートに参加いたしたく、どうぞよろしく願います。
(佐々木 孝昌 サブカル郷土史家、ラジオディレクター、「古本四ツ目屋」店主)
- 先般、初めて寄稿させていただきました。大変充実の冊子を拝受し、クオリティの高さに驚いております。今後もし楽しみに拝読させていただければと存じます。
(次六 尚子 神戸ファッション美術館 学芸員)
- 地域文化の発展に貢献する企業姿勢には、大いに共感しています。体験のコメントは特に楽しく読ませていただいております。カラー写真でイメージが膨らみます。冊子という媒体は、ぜひ続けていただきたいと思います。
(玉城 一枝 奈良芸術短期大学講師)
- 50年に及ぶ活動に敬意を表します。
(辻 則彦 フリーライター)
- 毎号、次はどんなテーマになるのだらうかと、ワクワク・ドキドキしながら書かせていただいています。記憶を活字として遺してくださる。これは、文化遺産だと。『関西浪漫紀行』ありがとうございます。なるべく過去に書いた場所などは避けています。旅の方法が年齢を重ねるごとに変化しているからです。今回は少し古い体験も入れています。人も街も施設の姿もが絶えず流動していきます。旅した年月を入れて現在状況も調べてはいますが、どうかよろしく願い申しあげます。
(寺田 操 詩人・コラムニスト)
- 長期にわたり、掲載していただき感謝申し上げます。ありがとうございます。
(中川 哲男 日本動物園水族館協会会長、元天王寺動物園園長)
- 拙文を掲載賜りありがとうございます。
(彦坂 真一郎 上方囃研究家、日本笑い学会会員、元読売新聞記者)
- 創立50年、まことにおめでとうございます。時代を超えた貴社の社会的貢献に敬意を表するとともに、歴代編集長の並々ならぬ苦勞と努力には頭が上がりません。関西の「三都」だけでなく、広く関西各府県の歴史的、文化的な魅力も紹介し、それぞれの地域振興に大いに役立っていると思います。大阪府に關していえば、従来とかく「北高南低」と言われてきましたが、その文化的な偏見に風穴を開け、泉州や河内は少しずつ誇りを取り戻しているように思います。
(山口 安昭 元京大津市文化フォーラムマネジャー)

継続は力なり 今後の「関西を考える会」への期待

- 毎年、冊子を刊行し、さまざまな角度から関西の魅力の掘り起こしを続けておられる活動に敬意を表します。今後も、引き続きさまざまなテーマの冊子刊行に期待しております。
(北川 央 九度山・真田ミュージアム名誉館長)
- 関西の元氣、活力アップに大きく貢献する活動を、半世紀の長きに亘り、継続してこられたことに心からの敬意を表します。多彩で多面的なテーマによる「関西」を対象とした情報の収集・発信は、今後も貴重な記録としても大きな価値を持ち続けると考えます。関西の未来に向け、更なるご活躍をお祈りいたします。
(木村 光利 (公財)神戸文化支援基金副理事長)
- 半世紀にも及ぶ地域貢献の息の長い取組みに、拍手、拍手です。多様な関西文化の情報と人(アンケート回答者)に関する50年の蓄積は、第一級の資(史)料として価値が一層高まっていくでしょう。これからもアナログで結構。誇りをもって、新たな50年へと踏み出してください。
(時岡 禎一郎 大阪府男女共同参画推進財団評議員)
- 50周年おめでとうございます。関西にこだわった雑誌が減る昨今、貴重な活動と思います。今後とも発行を続けてください。継続が命です！
(長沖 渉 演出家・脚本家)
- 1976年以来、50年にもわたり発行されていることに敬意を表します。冊子には初めて知る場所も多く、実に多くの方がテーマにあった場所を感じ思いのコメントと一緒に掲載されており、興味深く拝見させて頂きました。同じ場所であっても思い出や感じるものは、人それぞれであり、関西・大阪の魅力を伝える難しさを再認識させていただきました。ありがとうございます。今後も未永く続けていただけるようお願い申し上げます。
(平田 知敬 (公財)大阪観光局常務理事)
- 50周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。100周年を目指して増々良い企画を続けられまます事を祈念致します。
(深澤 光佐子 日本旅のペンクラブ会員、元京大観光おもてなし大使)
- 持続は力なり。筆者が一堂に会するのは素晴らしい。結束を強める機会としてほしい。
(三上 良樹 NHK OB)